ふれあいつながり かわら版

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育推進係
(079)221-2120

今できる小中一貫教育（１）

オンライン合同研修への挑戦

現在、新型コロナウイルス感染症対策として、学校においても「新しい生活様式」が求められ、人が集まる場面について、密を避けることや、ソーシャルディスタンスを保つことなどを、常に意識しなければならない状況にあります。

このような状況下において、直接的接触の必要がない、ＩＣＴによる双方向通信を活用した交流には、様々な期待が持てます。

一方で「通信が途中で切れたら…、失敗したらどうしよう」等の不安から、オンラインでの交流活動に二の足を踏む学校もあると思います。

しかし、これからの教育にＩＣＴ活用は欠かせません。私たち教職員の多くが、折角のＩＣＴ環境を使いこなせていないことは課題です。

確かに児童生徒の交流活動の機会で失敗するわけにはいきません。しかし、教職員研修の場ならば、失敗も含めて研修となります。今こそ新たな交流に挑戦する機会ではないでしょうか。

■広嶺中学校ブロック
～小中一貫教育オンライン合同研修～

８月25日、広嶺中ブロック３校（広嶺中・広峰小・城北小）で実施された、オンラインによる合同研修会（前半は広嶺中発信のカウンセリングマインド研修、後半は城北小発信の小中一貫教育研修）に参加しました。オンライン研修を実施する上での様々な工夫が見られたので紹介します。

【会場の分散・電子黒板の利用】

・密を避けるため、複数の普通教室に会場を分ける。１教室当たり、15人以内になっていた。

・校務用ＰＣで、ビデオ会議ツール「Ｍｅｅｔ」（Google Meet）を使う。安定した動作を保つため、使用する端末は一人一台とせず、発信者用の数台の他は各教室に一台とした。その一台は、電子黒板とつなぎ、画面を大きく表示した。

会場を分けたことで、教室を広く使うことができ、グループ協議でも、周りに遠慮せず、発言し易いと感じました。表示する文字等のサイズが小さ過ぎなければ、教室の後方の席でも、電子黒板で見ることも問題はありませんでした。

メイン会場（城北小）の様子
中央は講師の先生

サブ会場（広嶺中）の様子
４人の小グループでの協議

【交流の工夫】

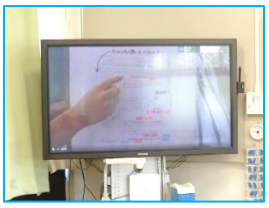
・講師の説明や指示を、文字で画面に大きく映していた。

・グループで協議した内容を、ホワイトボードにまとめ、それを画面に映しながら説明した。

どうしても、画面を介しての交流は、対面での話し合いのようにはいきません。メイン会場における講師とのやりとりが、サブ会場では非常に聞きづらかったなどの課題も見られました。（だからこそ、文字情報の表示は非常に効果的でした。）

直接交流は、教室のグループで行い、Ｍｅｅｔは、講師の説明やグループの発表などの一方通行の発信場面で活用するのが良いと感じました。

協議内容の説明を、ホワイトボードを使い教室のＰＣから発信


上記の説明の様子を映す
別会場の電子黒板

合同研修を実施するに当たり、広嶺中ブロックの推進委員会は、「先行作成したブランドカリキュラムを指針とし、学びのプロセスを活用した授業づくりを進める」という研究のねらいを明確にし、３校で共有して取り組まれました。

今回紹介したオンライン研修会は、広嶺中ブロックの、コロナ禍においても何とか合同研修を進めたいという想いから実現した素晴らしい取組です。内容や方法から照らし合わせても、この取組は分離型における有効なツールになり得るものだと思いました。もちろん、オンライン研修はあくまで手段です。何より大切なのは、ねらいを明確にして、合同で研修に取り組む小中職員の姿勢だと、改めて感じた研修会でした。